



多田牧子 経歴

日本の組紐を約45年、アンデスの組紐を約35年研究製作し、組紐総覧7冊をはじめ、著書多数がある。神護寺経の紐の復元に携わるなど、中世の組紐の解明模造修復を行っている。また招聘による海外でのワークショップや講演および展示会を多数行っている。そして、組紐ディスク・組紐プレートデザイン、簡単かつ新しい創作の組紐を発表、組紐の普及に努めている。2003年3月に京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科、先端ファイブロ科学専攻博士課程修了、「組物の3次元構造の解明と製組方法に関する研究」で、博士(工学)の学位を取得した。現在、京都工芸繊維大学大学院・非常勤講師を務める。



組紐・組物について

組紐・組物は世界中で使用されていますが、それは非常に簡単なものがほとんどです。日本では古くから時をかけて発達し、特別な「組紐・組物の文化」を創り上げてきました。

紀元前の縄文土器からもその圧痕紋が発見され、また紀元後も古墳時代には刀の鞘に巻かれるなど、その歴史はたいへん古いのです。そして現在、様々な分野で用いられ、これからの発展性のある材料として注目されています。